

Vol.
35&36

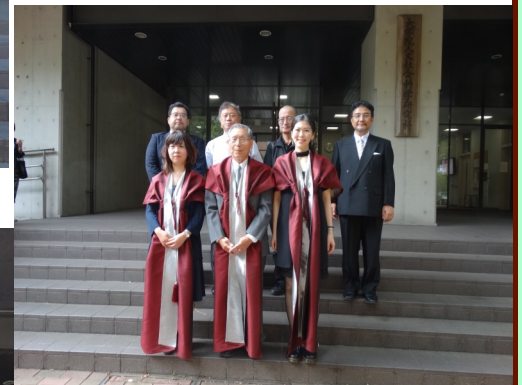
人社研 Newsletter



2015 (H27)年度後半期博士学位取得



2016 (H28)年度後半期博士学位取得



2016(H28)年度前半期博士学位取得

目次

巻頭辞	2
2015年度後半期, 2016年度前後半期期学位授与式	3
2016年度新規科目担当者	4
2016年度科学研究費新規プロジェクト	4

人文社会科学研究科所属教員による出版物	5
社会文化科学研究科修了生による出版物	5
博士後期課程大学院生業績・助成金	6

巻 頭 辞

修了おめでとう御座います。

今年度で大学院人文社会科学研究科は募集停止となり、新たに大学院人文公共学府が開設されます。研究科の学生が在学している限り組織は残りますから、しばらくは研究科と学府の並立になります。

慣れ親しんだ組織が改組され、徐々に退場していくことに、一抹の淋しさが無いと言ったら嘘になります。それは、年々歳々旅立っていく修了生達の後ろ姿に感じる淋しに通ずるものがあります。けれども旅立ちの別れが、祝福すべき出発であるのと同様、わたしたちの大学院の改組も前向きの変化です。先輩から後輩へ、本年修了される皆さんの代まで、何よりも院生の皆さんが立派な業績を積み重ねてきたおかげで、私たちの大学院は新しいステージに進むことができました。

あなたたちの貢献に恥じない組織を、さらに育てていきたいと思います。

後輩達のことをどうか見守っていて下さい。

千葉大学大学院人文社会科学研究科 研究科長

石井正人

2015（H27）年度後半期学位授与式

2016年3月25日、文学部棟2階203講義室において学位授与式が行われ、以下に掲載する1名の方が論文提出により学位（博士）を、5名の方が人文社会科学研究科博士後期課程を修了して学位（博士）を（表紙写真）、53名の方が人文社会科学研究科博士前期課程を修了して学位（修士）を（右写真）取得されました。



2015年度後半期論文による学位取得者（2016年3月）

氏名	博士論文題名	取得学位
竹澤 伸一	「社会科環境学習」が創造する「ライフヒストリー（人生史）」の研究—「公的資質」育成に関する「社会貢	博士（学術）

2015年度後半期人文社会科学研究科後期課程修了者（2016年3月）

氏名	博士論文題名	取得学位
河合 文	生業経済と市場経済からみた環境認識と利用実践—マレーシア半島部・クランタン川上流域における狩	博士（学術）
斯日古楞	食文化の資源化における民族と地域—現代内モンゴルにおける「モンゴル料理」の分析を通じて—	博士（学術）
小林 美紀	アイヌ語動詞の結合価と項構造	博士（文学）
松田 光太郎	縄文時代前期後葉の広域土器編年に関する研究—諸磯式土器とその隣接土器型式を中心として	博士（文学）
王 守利	連体修飾節におけるティタのアスペクトの意味に関する研究	博士（文学）

2016（H28）年度前半期学位授与式

2016年9月28日、人文社会科学系総合研究棟2階マルチメディア会議室で学位授与式が行われ、以下に掲載する1名の方が論文提出により学位（博士）を、3名の方が人文社会科学研究科博士後期課程を修了して学位（博士）を（表紙写真）、4名の方が人文社会科学研究科博士前期課程を修了して学位（修士）（右写真）を取得されました。



2016年度前半期論文による学位取得者（2016年9月）

氏名	博士論文題名	取得学位
小野 智香子	イテリメン語の動詞の構造—西部語北方方言の記述研究—	博士（文学）

2016年度前半期人文社会科学研究科博士後期課程修了者（2016年9月）

氏 名	論文表題	取得学位
妻鹿 ふみ子	「ボランティア終焉論」後における支え合いの思想と実践—コミュニティアニズムとケア・居場所—	博士（公共学）
池田 健雄	華北占領地居留民社会の研究—太原・石家庄・済南と北京・天津・青島の特別市—	博士（文学）
王 慈敏	現代日本語における価値判断のモダリティに関する研究	博士（文学）

2016（H28）年度後半期学位授与式

2015年3月24日、文学部棟2階203講義室で学位授与式が行われ、以下に掲載する1名の方が論文提出により学位（博士）を、9名の方が人文社会科学研究科博士後期課程を修了して学位（博士）を（表紙写真）、37名の方が人文社会科学研究科博士前期課程を修了して学位（修士）（右写真）を取得されました。



2016年度後半期論文による学位取得者（2016年9月）

氏名	博士論文題名	取得学位
棚木 憲一郎	フィヒテ政治思想と日本—共和主義思想との関連から—	博士（政治学）

氏名	博士論文題名	取得学位
朱 迅	中国における資源立地型都市の経済転換に関する研究—空間、再生可能エネルギーの視点を中心として	博士(公共学)
岡山 咲子	大学における学生主体の環境マネジメントシステムの現状とその展開—「学内実務インターンシップ」の提案—	博士(公共学)
勝田 聡	保護観察中の性犯罪者の性的認知の歪みに関する研究	博士(学術)
陳 卓君	日本と中国の小学校における異文化間交流—一日中の漢字題材の視点を踏まえた共同授業実践から—	博士(学術)
坂倉 涼	一人称的観点と外界	博士(文学)
徳本 和也	様相の形而上学における現実、存在、偶然	博士(文学)
久保田さゆり	動物の倫理的重みと人間の責務—動物倫理の方法と課題—	博士(文学)
深澤 美香	加賀家文書におけるアイヌ語の文献学的研究	博士(文学)
大塚 萌	日本マンガの独・英翻訳比較研究	博士(文学)

2016（H28）年度新規科目担当者

2016年度人文社会科学研究科新規科目担当者は以下の通りです。

課程	専攻	研究教育分野	職名	氏名	科目名
博士前期課程	総合文化研究	人間行動	助教	渡辺安里依	比較認知行動論・同演習

2016（H28）年度科学研究費新規プロジェクト

2016年度の新規採択は以下の通りです。1)代表者名 2)2016年度予算額（単位は円）

専任教員

基盤研究(B)一般 「哲学分野における男女共同参画と若手研究者育成に関する理論・実践的研究」

1)和泉ちえ教授 2)5,530,000

基盤研究(C)一般 「「統一基準」に基づく地方公共団体の決算情報と予算のリンケージに関する実証的研究」

1)大塚成男教授 2)1,500,000

挑戦的萌芽研究 「近代「地域」の記述と『平家物語』の「記憶」をめぐる研究—史蹟紀行・郷土史を対象に—

1)久保 勇助教 2)691,000

学術振興会特別研究員

挑戦的萌芽研究 「科学的意識研究の方法論的基礎の哲学的検討：プロセス論的アプローチの確立に向けて」

1)新川拓哉 2)1,650,000

若手研究(B) 「古代末期から初期中世期におけるキリスト教殉教概念変遷史の政治史的解明」

1)大谷 哲 2)1,250,000

兼任教員

基盤研究(A)一般 宗教の政治化と政治の宗教化：現代中東の宗派対立における社会的要因と国際政治の影響（酒井啓子法政経学部教授）

基盤研究(B)一般 プロセスベースのマルチモーダル概念理論の構築と実証についての分野横断的研究（松香敏彦文学部教授）

基盤研究(B)一般 占領期ローカルメディアに関する資料調査および総合的考察(大原祐治文学部准教授)

基盤研究(B)一般 『慕帰絵』の制作事情をめぐる総合的研究 一覽如像の構築方法と建築表現に注目して（池田 忍文学部教授）

基盤研究(B)特設分野研究 国際移動の実践科学—ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康（小澤弘明国際教養学部教授）

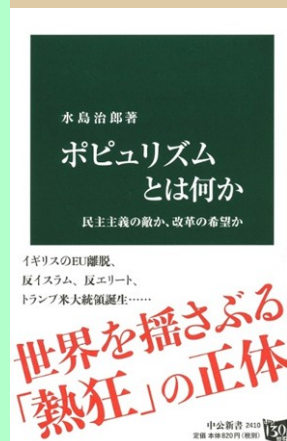
基盤研究(C)一般 ミャオ語系諸語文法の記述言語学的・歴史言語学的研究(田口善久文学部准教授)

基盤研究(C)一般 空間探索における冗長な情報の役割の解明：ナビゲーションの比較認知研究（牛谷智一文学部准教授）

基盤研究(C) 19世紀ビルマ・デルタ地域における下級官吏と植民統治体制（岩城高広文学部学部准教授）

基盤研究(C)一般 江戸時代の藩領国における史蹟顕彰の基礎的研究(引野亨輔文学部准教授)
 基盤研究(C)一般 会計不正の民事法的コントロール(堀田佳文法政経学部准教授)
 若手研究(B) ポスト個人化社会における人類学的家族研究の再構築：北欧型親族介護を事例に(高橋絵里香文学部准教授)
 若手研究(B) 部門文化の多様性を活用した組織の活性化および革新プロセスの解明(横尾陽道法政経学部准教授)
 若手研究(B) 両大戦間期フランスの移民政策と国際ネットワークの形成(中村千尋法政経学部准教授)
 若手研究(B) 知的財産の保護政策と競争政策の経済成長効果に関する研究(鈴木慶春法政経学部講師)
 若手研究(B) 混合効果モデルの変数選択問題と小地域推定への応用(川久保友超法政経学部講師)

2016年1～2017年3月 人文社会科学研究所所属教員による出版物



水島治郎 『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』
(中公新書、2016年12月)

イギリスのEU離脱、アメリカのトランプ大統領誕生、反イスラムなどの排外主義の広がりを始めとして、ポピュリズムは世界的に急速に拡大を続けています。「大衆迎合主義」とも訳されるポピュリズムは、民主主義とは両立しえず、民主主義が標榜する理念を根幹から脅かす存在として捉えられがちです。

これに対し本書では、民主主義 v s ポピュリズムという捉え方ではなく、ポピュリズムとは民主主義に内在する「内なる敵」とあるという視点が提供されます。ポピュリズムには、政治から排除されてきた人々の政治参加を促し、特権的なエリート層に対抗する人民の力という側面があり、それ自体は民主主義のあるべき姿と矛盾しません。その一方で、ポピュリズムには「人民」の意思を重視するあまり、権力分立や政党、議会、司法機関といった、よき統治を実現するために必要な制度を無視し、権力濫用につながる危険性も強くあります。

社会経済格差が圧倒的に大きく、権威主義的なエリート統治が強いラテンアメリカにおける社会改革や分配を求める「解放」志向、福祉国家が発達し再分配が実施されてきたヨーロッパにおいて福祉受給者となりやすい移民・難民を排除する「抑圧」志向といったポピュリズムの多面性、登場の経緯と功罪を明らかにすることで、ポピュリズムだけでなく現代の民主主義が抱える本質的な課題に迫ろうとしています。

これまで朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・日本経済新聞・産経新聞・東京新聞・北海道新聞・週刊東洋経済・NHK・TBS・週刊読書人・週刊文春などきわめて多数のメディアで紹介され、すでに5刷となりました。

2016年1～2017年3月 社会文化科学研究科修了生による出版物



入江俊夫, 『これからのウィットゲンシュタイン ——刷新と応用の14篇』, 分担執筆：第5章「概念形成へのまなざし —ウィットゲンシュタインの言語観と数学の哲学—」, リベルタス出版, 2016年12月.

本書は、アメリカの“New Wittgenstein”学派による解釈上の新しい潮流を受け、「英米の分析系／大陸系」という枠を超えた哲学的見地から、さらには哲学研究の枠を超え、教育学・社会学・計算言語学・法学といった学術研究の見地から、「21世紀のいまわれわれがウィットゲンシュタインから何を学ぶのか」という問題を改めて問い直すために編纂された。著者は、ウィットゲンシュタインの読み直しを主眼とする第1部の第5章「概念形成へのまなざし —ウィットゲンシュタインの言語観と数学の哲学—」を分担し、未規定性を常に孕む諸概念が当座の必要に応じてそのつど規定されていくという、言語のダイナミックな側面に対するウィットゲンシュタインの捉え方を、彼の数学の哲学、とりわけ、証明による概念の形成（内的連関の生成）にまつわる彼の議論を跡付けることを通じて明らかにし、ウィットゲンシュタインの後期哲学が理解可能性や合理性一般の観念に改変を迫る広い射程を持つものであることを示している。

押尾高志

論文

「モリスコの『礼拝手引書』：アラビア文字とラテン文字の狭間で」
『スペイン史研究』第30号、2016年12月、1-17頁。

佐藤耕太

論文

「The Catcher in the Ryeに関する脱構築的読解の試みー子から父への反抗の物語ー」、
『人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書第318集』、2017年2月、1-17頁。

槇野沙央理（後期課程公共研究専攻）

論文

「なぜ治療は言葉の用いられ方に注意を向けさせるのか？——ウィトゲンシュタイン『哲学探究』の方法」

『研究成果報告書；イギリス思想における常識と啓蒙の系譜とその現代的意義についての研究』、
武蔵野大学人間科学部、2016年、pp. 65-78

「Wittgenstein's Therapeutic Method and His Patient's Problems」

『Aesthetics Today』、Austrian Ludwig Wittgenstein Society、pp. 149-51、2016

「『哲学探究』とアウグスティヌスの知」

『筑波哲学』、筑波大学哲学・思想研究会、第25号、pp. 18-29、2017

七星純子

助成金

「平成27年度(公財)教科書研究センター大学院生の教科書研究論文助成金」